

(27) 以下の通り訂正いたします。

## P312 共同発表者追加

誤

### 339) 老年期乳がん患者の体験談による看護学生の学び

○上西洋子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>森ノ宮医療大学

#### 【目的】

老年期乳がん患者の体験談の聴講を通し看護学生の学びの内容を明らかにする。

#### 【方法】

対象：看護学科1年生，方法：①後期講義科目『患者学』の授業のうち1コマで，老年期乳がん患者3名に体験談を約20分語ってもらった。②学生は体験談を記録用紙に記載した。分析：学生の記録物を内容分析した。告知から治療期間中と乗り越えてきた期間に区分しまとまった意味が読み取れる文節ごとに区切り，簡潔な表現に要約したものを分析単位とした。類似する分析単位を集めてカテゴリー化を行った。老年看護の研究者2名で分類を行い妥当性の確保に努めた。倫理的配慮：A病院のがん患者会代表に研究協力と同意を得て，3名の老年期乳がん患者の紹介を受けた。老年期乳がん患者に研究参加の自由と，研究途中の辞退も可能で不利益を被らない，個人情報保護と保管の厳守，研究終了後のデータ破棄，体験談の発表に要する時間，得られたデータは学会等で公表することについて，口頭で説明をして同意を得た。学生には同様に説明と，記録物は無記名で提出は学生の自由意思であり，成績評価には影響しないことや研究の承諾を得た上で所定の場所に提出することを説明して記録物の提出で同意を得た。本研究は大学の研究倫理委員会の承認を得た。

#### 【結果】

研究協力が得られた学生は83名(94%)であった。以下の文章でカテゴリーは「」で示す。告知から治療期間中での学びは，4個のカテゴリーが抽出できた。「告知の受け止め方は個人差がある」では，ショックを受けたり死をイメージしたり実感がわからない等であった。「抗がん剤の副作用の辛い思いを知る」では，副作用は身体の苦痛だけでなく，不安で心の痛みも感じた等であった。「治療を受ける患者の理解が深まる」では，気持ちを強く持たないとくじけてしまう等であった。「疾患や治療について理解が深まる」では，体験の話から副作用の内容が実感できた等であった。

乗り越えてきた期間の学びでは4個のカテゴリーが抽出できた。「支えてくれる人がいる」では，家族の存在のありがたさや，看護師の存在で気持ちが楽になったり，励ましの言葉で頑張ろうと思った等であった。「わかちあう友人がいる」では，患者同士の話し合いで楽になったり，同疾患の人と疾患や治療，医療費など相談できる等であった。「疾患を持ちながら生きる」については，再発の恐怖と闘いながら生きていることの内容であった。「同疾患の友人と闘う」では患者会の人と闘うことで生きる勇気がもてる等の内容であった。

#### 【考察】

体験談から，学生は疾患を持ちながら生きる患者がイメージしやすく，疾患・治療の意味や生活の影響を知ることができたと考えられる。また，看護師の存在の大きさや，看護師を目指す意識も深まったと考えられた。本研究は，患者会に所属している患者の体験談に限定したことから，患者同士のピアサポートの影響があると考えられる。

正

### 339) 老年期乳がん患者の体験談による看護学生の学び

○上西洋子<sup>1</sup>，松川泰子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>森ノ宮医療大学，<sup>2</sup>元森ノ宮医療大学

#### 【目的】

老年期乳がん患者の体験談の聴講を通し看護学生の学びの内容を明らかにする。

#### 【方法】

対象：看護学科1年生，方法：①後期講義科目『患者学』の授業のうち1コマで，老年期乳がん患者3名に体験談を約20分語ってもらった。②学生は体験談を記録用紙に記載した。分析：学生の記録物を内容分析した。告知から治療期間中と乗り越えてきた期間に区分しまとまった意味が読み取れる文節ごとに区切り，簡潔な表現に要約したものを分析単位とした。類似する分析単位を集めてカテゴリー化を行った。老年看護の研究者2名で分類を行い妥当性の確保に努めた。倫理的配慮：A病院のがん患者会代表に研究協力と同意を得て，3名の老年期乳がん患者の紹介を受けた。老年期乳がん患者に研究参加の自由と，研究途中の辞退も可能で不利益を被らない，個人情報保護と保管の厳守，研究終了後のデータ破棄，体験談の発表に要する時間，得られたデータは学会等で公表することについて，口頭で説明をして同意を得た。学生には同様に説明と，記録物は無記名で提出は学生の自由意思であり，成績評価には影響しないことや研究の承諾を得た上で所定の場所に提出することを説明して記録物の提出で同意を得た。本研究は大学の研究倫理委員会の承認を得た。

#### 【結果】

研究協力が得られた学生は83名(94%)であった。以下の文章でカテゴリーは「」で示す。告知から治療期間中での学びは，4個のカテゴリーが抽出できた。「告知の受け止め方は個人差がある」では，ショックを受けたり死をイメージしたり実感がわからない等であった。「抗がん剤の副作用の辛い思いを知る」では，副作用は身体の苦痛だけでなく，不安で心の痛みも感じた等であった。「治療を受ける患者の理解が深まる」では，気持ちを強く持たないとくじけてしまう等であった。「疾患や治療について理解が深まる」では，体験の話から副作用の内容が実感できた等であった。

乗り越えてきた期間の学びでは4個のカテゴリーが抽出できた。「支えてくれる人がいる」では，家族の存在のありがたさや，看護師の存在で気持ちが楽になったり，励ましの言葉で頑張ろうと思った等であった。「わかちあう友人がいる」では，患者同士の話し合いで楽になったり，同疾患の人と疾患や治療，医療費など相談できる等であった。「疾患を持ちながら生きる」については，再発の恐怖と闘いながら生きていることの内容であった。「同疾患の友人と闘う」では患者会の人と闘うことで生きる勇気がもてる等の内容であった。

#### 【考察】

体験談から，学生は疾患を持ちながら生きる患者がイメージしやすく，疾患・治療の意味や生活の影響を知ることができたと考えられる。また，看護師の存在の大きさや，看護師を目指す意識も深まったと考えられた。本研究は，患者会に所属している患者の体験談に限定したことから，患者同士のピアサポートの影響があると考えられる。